

平成 28 年度 一般社団法人 全国訪問看護事業協会

訪問看護事業者(管理者大会)に参加して

訪問看護ステーションフォレスト熊本 森安 玲子

平成 29 年 3 月 8 日に、日本医師会館にて上記開催されました。

○総会

1. 平成 28 年度事業進捗状況(関連のみ抜粋)

・熊本地震

4 月 15 日から、被害情報の収集・災害関連の情報発信開始

*厚生労働省・熊本県及び大分県の訪問看護ステーション連絡協議会・木村理事・
日本医師会・日本看護協会・日本訪問看護財団と連携をとって情報収集

4 月 20 日から、「訪問看護派遣事前登録申し込み」を開始

4 月 26 日から、「平成 28 年熊本地震義援金(支援金)」の募集を開始

8 月 15 日 被災義援金(支援金)の受け入れ希望の熊本県内の 26 訪問看護ステーションと熊本県連絡協議会に送金(熊本県訪問看護ステーション連絡協議会は、特別会計として、災害時のマニュアル作成等に活用)

2. 平成 29 年度事業計画

1)地域包括ケアの実現を目指し、訪問看護をはじめとする在宅サービスがより国民に届くようにするために、訪問看護ステーション・関連事業の設置促進や大規模化・多機能化の促進等、平成 30 年の診療報酬・介護報酬同時改定にむけて取り組む。

2)訪問看護事業所が、事業所単位、都道府県や市区町村単位で、都道府県訪問看護ステーション協議会や行政と一緒に、訪問看護の量的確保や質の向上のための事業所推進に取り組めるよう支援する。

○訪問看護事業者(管理者)大会

講演：「看護師の特定行為研修の概要について」

講師：加藤典子氏(厚生労働省医政局看護課看護サービス推進室長)

主な内容：受講した看護師からは、いろいろな内容を同僚にアドバイスできる。薬理の詳しい知識が学習できてよかった等の声が上がっているとの事であった。

講演：「地域の医療・介護で何を指すのか？」

講師：鈴木康裕氏(厚生労働省保健局長)

主な内容：ご当地医療・看護介護で自らが住みたい「地域づくり」を推進。人が変わっても持続性を確保するためには情動で動くのではなく、科学する。楽しんで続けられる工夫が大切である。

特別講演：「箱根駅伝から学ぶ成長するための秘訣

より良い組織づくりがよい人材を育てる」

講師：原 晋(青山学院大学体育会陸上部監督)

主な内容：管理者は我慢することが大切。原流「勝ち続ける 10 のポイント」(1、10 年後の自分を思い描く。2、半歩先の目標を設定し実現する。3、出来るための方法を考える。4、本気だからこそ悔しいと思える。5、話しをする事、提案することをよしとせよ。6、大義をかかげ、三割理論でよしとせよ。7、個人と組織、両輪で評価する。8、一体感を持ち続ける。9、怒るよりアドバイス。10、最後は何とかなるさ。

平成 27 年度研究発表&質疑応答

- ・「医療ニーズの高い療養者の在宅生活を支援する訪問看護ステーションの在り方に関するシステム開発及び調査研究」

講師：福井小紀子氏(日本赤十字大学地域看護学分野教授)

- ・「訪問看護ステーションにおける新卒看護師採用及び教育ガイドブック策定」

講師：山田 雅子(聖路加国際大学看護学部教授)

- ・「訪問看護ステーションにおける 24 時間対応体制に関する調査研究」

講師：川村 佐和子氏(聖隷クリストファー大学院教授)

主な内容：福井先生は、「訪問看護ステーションにおける事業所自己評価のガイドライン(第 1 版)」を活用して、訪問看護ステーションの見えるかの推進を提言されました。山田先生は「地域で育てる新卒訪問看護師のための包括的人材育成ガイド」を提示され、きらきら訪問看護育成については、安易に採用するのではなく、事業所として用意周到に取り組んでいただきたいと述べておられました。川村先生の 24 時間対応体制については、現状の厳しい状況を鑑み、訪問看護事業所の大規模化と地域連携によって一体化を図る等の提言をされていました。

初めて、事業者大会に参加させていただき学んだ事として、日々の業務に追われるだけでなく、全国訪問看護事業協会など、訪問看護を支えている団体の活動を理解し、上手く活用していく必要があると感じました。現場の問題を自分だけで抱え込まずに、声に出して発信することから始める事が、今後の訪問看護事業の発展の第一歩となると考えます。貴重な大会に参加させていただき、感謝申し上げます。